

香取 No.85

普及だより

平成26年12月1日

発行

香取農業事務所 改良普及課
香取地域農林業振興協議会

〒287-0005 千葉県香取市佐原ホ1250-2 TEL:0478(52)9195 FAX:0478(55)1703
ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-katori/index.html>



香取地域では、稲わらの収集や河川敷の野草利用、飼料用とうもろこしの栽培、稲ホールクラップサイレージ（以下稲WCS）、飼料用米の利用など、様々な畜産農家での自給飼料の取組が行われています。

管内の営農組合におけるWCS用稲の作付は平成十九年より取組が始まり、平成二十六年には香取市、多古町、神崎町合わせて二百五十haの作付面積となつています。

各市町では、WCS用稲を作付けする水稲農家、畜産農家、収穫・調製を行うコントラクター、関係機関等が協議を行つています。協議会では、昨年度の分析や今年度の取決め等を行い、より良い収穫・調製に取り組んでいます。収穫作業にはフレール型の専用収穫機が主として稼働していますが、WCS用稲の面積拡大に伴い、今年度からコンバイン型専用収穫機や細断型収穫機が新たに登場しています。

農業事務所では、地域に適したWCS用稲の品種選定や、栽培方法と利用について支援しています。

新規需要米の 取組について

近年、主食用米の消費は減少し、全国の水田の六割の生産量で賄える状況になっていきます。

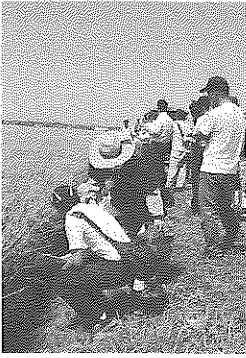
このような状況の中、米による生産調整が可能である新規需要米の取組が拡大しています。

平成二十六年の香取管内での作付面積は、おおむねWCS用稲二百五十ha、飼料用米百十ha、米粉用米五haです。

なお、新規需要米は、取引先と契約してから始める必要があります。

飼料用米について

飼料用米は、主食用品種または飼料用の専用品種で取組みます。専用品種は「夢あおば」等の国で指定されている品種と、千葉県独自の品種「アキヒカリ」と「初星」があります。



飼料用米現地検討会

市町村の基準収量を出荷する一括管理方式は、国から10a当たり八万円が交付されます。飼料米栽培圃場を特定し全量を出荷する区分管理方式は、基準収量に対し1kg当たり百六十七円増減し最高十万五千元、最低五万五千元交付されます。また、条件を満たせば県や市町村からの交付金が上乘せされます。

専用品種栽培上の注意

専用品種は、主食用米に混ざらない細心の注意が必要です。

①休眠が深い品種は遅い時期に播種する計画を組み、10℃以上の水で積算温度百二十℃を目安に浸漬します。

②粒が大きい品種が多いため、播種機の調整が必要です。

③収量が多く稈が太いので、コンバイン刈取速度を遅くします。

④コンバイン乾燥調製ラインの掃除はコンタミ防止に必要です。

⑤次年度に主食用米を栽培する場合、こぼれ種から混種する可能性が高く、必ず二番穂が実る前に耕耘し、翌年初期除草剤を使用し漏生粉の発生を抑えます。

飼料用米専用品種は、圃場を固定して取組みましょう。

農地中間管理機構 について

本年度から各都道府県に一つ設置された「農地中間管理機構」は、農業振興地域内の農地を借り受けて、必要な場合には簡易な基盤整備を行い、まとまりのある形で担い手に貸し付ける事業を実施する公的機関です。

千葉県では「公益社団法人千葉県園芸協会」を農地中間管理機構として指定し、業務を開始しました。

「引退するから農地を貸したい」、「相続した農地を貸したい」などの意向があるが相手を見つけれない人や、「農地を借りて経営規模を拡大したい」、「農地を借りて農業を始めてみたい」などの意向がある人は、農地中間管理機構へ連絡してください。

なお、「再生不能な遊休農地など、農地として利用することが著しく困難な場合」等は借受対象農地から除きます。

また、農地を貸したい人は随時募集していますが、農地を借りたい人の募集は、原則として

八月と十二月に行います。

まとまった農地を農地中間管理機構へ貸し付けた地域には市町村を窓口とし、協力金が支払われる場合があります。また、農地を農地中間管理機構に貸し付けた個人にも協力金が支払われる場合があります。いずれも、一定の条件を満たす必要があります。

◆協力金の概要◆

○地域集積協力金

地域の農地の一定割合を貸し付けた場合
二万～三万六千円／10a

○経営転換協力金

離農や経営転換により全自作地を貸し付けた場合
三十万～七十万円／戸

○耕作者集積協力金

担い手の耕作地の隣接農地を貸し付けた場合
二万円／10a

※平成二十八年度以降、段階的に減額されます。

詳しくは、公益社団法人千葉県園芸協会農地部（電話〇四三―二三三―三〇一一）へお問い合わせください。

若い経営者による大規模野菜経営の紹介

㈱ローソンプアーム千葉

代表取締役

篠塚利彦氏 (三十歳)



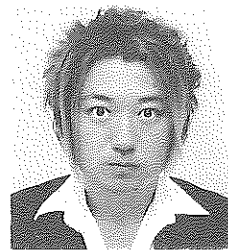
香取市岩部に拠点を置く㈱ローソンプアーム千葉は、コンビニエンスストア大手のローソンに生鮮野菜を供給する農業生産法人です。篠塚氏は、作付計画から生産、商談、会社運営まで全ての業務を担い、精力的に活動しています。

現在、にんじん・だいこん・ほうれんそう・こまつなを作付しており、作付延べ面積は約二十haです。会社設立から四年で生産規模は四倍へと拡大しました。さらに葉物野菜の周年安定供給に向けて施設化を進めており、今年度中にパイプハウスを一・五倍に増設する見込みです。

また、六次産業化も目指しており、地域のモデルとして期待される若きエースです。

飯島農産

飯島健寿氏 (三十五歳)



香取市長岡の飯島氏は、三十五haの畑で、家族とともに野菜の大規模経営を行っています。平成十三年の就農時に3haの面積でこかぶ栽培を始め、栽培未経験の野菜にも十品目以上挑戦してきました。現在では、作業面で効率的なだいこんを中心に、ほうれんそう・じゃがいも・なす・とうもろこし等を栽培する野菜の多品目経営に発展しました。

柔軟な経営品目の変更、機械化、及びパート従業員の雇用により、着実に経営を拡大しています。地域農業を担う若手経営者の集まりである農業士活動では、昨年度まで県の会長理事を務め、千葉県内で一目置かれる存在として、多くの農業者に影響を与えています。

緑肥によるセンチュウ対策

根菜類の作付けが多い香取地域ではネコブセンチュウ被害が増加しています。対策のひとつとして、センチュウ対抗緑肥作物の導入があります。その利点として、ネコブセンチュウの密度を減らすだけでなく、地力向上、物理性の改善等、薬剤には無い効果が期待できます。まずは、春夏にんじん、じゃがいも後の播種に挑戦してみてください。(表参照)

注意点としては、すき込み後の腐熟期間を一ヶ月ほど取ることで、窒素飢餓や雑菌(ピシウム等)の増殖を防ぎます。

表 主なネコブセンチュウ対抗緑肥

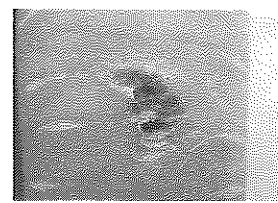
	は種量 kg/10a	播種期	注意点
クロタラリア (ネマキング等)	8~9	5月中旬 ~7月中旬	茎が硬くなる前(花が咲く前)にすき込む。
ギニアグラス (なつかぜ、ソイルクリーン等)	1~1.5	6月上旬 ~8月上旬	雑草化を防ぐため、穂がでる前にすき込む。
ソルゴー (つちたろう)	5	5月中旬 ~8月中旬	播種後50~60日を目安にすき込む。
エン麦 (たちいぶき等)	8~10	3~5月、 9~11月	出穂前後にすき込む。

春夏にんじん栽培情報

①べたがけマルチ栽培の試験
トンネル設置や換気作業の省力化及び低コスト化を目的に、千葉県農林総合研究センターで取り組まれているべたがけマルチ栽培試験について、二十六年度に現地実証を行いました。資料は、パスライトブルー(上)とスーパードライトブルー(下)の二重被覆で、二月二十四日に播種しましたが、七月二日(生育日数は百二十八日)の収量調査では、生育日数百二十六日のトンネル栽培と同等の収量でした。マルチは必須となりますが、二月下旬播種、六月下旬~七月初めの収穫が可能でした。

②ピョウタンゾウムシに注意

県内他産地で問題となつて



るピョウタンゾウムシの幼虫による食害ですが、二十六年作では香取地域でも見られましたので、ご注意下さい。

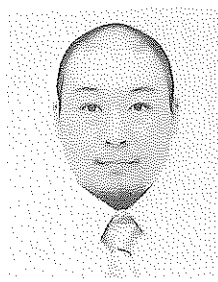
千葉県農業士認証者の紹介

平成二十六年十一月十二日に新たに認証された四名の方々を紹介します。



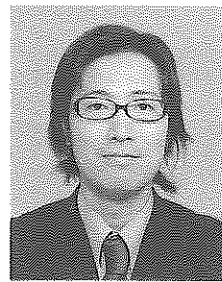
都祭 孝彦さん
(香取市)

露地野菜の栽培面積は地域水準を大きく上回り、常に作業の効率化を意識した経営に取り組んでいます。農事組合法人「和郷園」の若者部会長として活躍するなどリーダー的存在です。



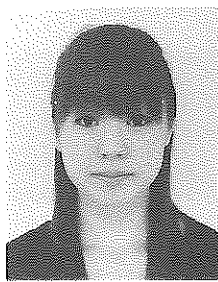
香取 拓也さん
(香取市)

食の安全安心にこだわり、有機JAS認証を取得し、落花生、にんじん、さつまいも等契約販売を行っています。青年農業者団体さわらファーマーズクラブのリーダーとして活躍中です。



田谷 仁さん
(東庄町)

水稲・露地野菜の複合経営を行っており、農作業の効率化を目指した作業体系に取り組んでいます。さわらファーマーズクラブの中心メンバーとしても活躍中です。



實川 恵子さん
(東庄町)

地域内でトップクラスの養豚の繁殖肥育一貫経営体で、養豚の先進技術を導入し、経営発展に取り組んでいます。女性農業者の社会参画や地域農業の牽引役として活躍しています。

若手女性農業者グループ『かとりクローバーS』発足!

発足!

最近では「農業女子」という言葉もありますが、若い女性農業者は、農作業や家事、子育てなど、とても多忙な中頑張っています。香取地域では、そんな若手女性農業者のグループ四つが活動していましたが、平成二十六年二月に合併し、新しく『かとりクローバーS』が三十三名の会員で発足しました。

『楽しい仲間作りと学習活動をとおして、農業経営と農家生活の向上を目指します』という活動目標を作り、二ヶ月に一回研修会や経営訪問などの活動を行っています。

年齢はおおむね二十〜四十歳代で、経営類型は野菜・水稲・畜産・花き・加工など様々です。同じ立場の女性農業者の仲間を増やしていきたい!と考えていますので、興味のある方はぜひ参加してみてください。

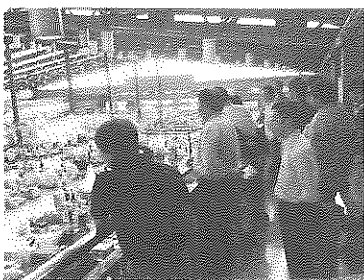
お問い合わせは、香取農業事務所改良普及課までどうぞ!

「農業経営体育成セミナー」平成二十七年度新規受講生募集中!

香取農業事務所では、概ね三十五歳以下の若手新規就農者を対象に農業経営体育成セミナーを開催しています。

このセミナーは、講義や実習、視察研修により農業経営に不可欠な栽培・管理技術・経営について三年間かけて学ぶカリキュラムです。また、地域の生産者との交流にも努めており、担い手同士の仲間づくりのお手伝いもしています。

お問い合わせ・申し込みは香取農業事務所改良普及課(左記の電話番号)へご連絡下さい。
〇四七八(五二)九一九五



大田市場視察研修の様子